

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実践報告書

- 1 学校名：鳥取県立琴の浦高等特別支援学校
- 2 実施日時：2019年12月23日（月）11：35-15：20
- 3 対象： 全校生徒 111名
- 4 派遣講師：川中 香緒里 氏（ロンドンオリンピック アーチェリー女子団体 銅メダル）
- 5 授業内容：アスリートによる講演とアーチェリーの体験

2019年12月23日（月）に、鳥取県立琴の浦高等特別支援学校にて、ロンドンオリンピックとリオデジャネイロオリンピックのアーチェリーに出場された川中香緒里さんをお招きし、オリパラ教育が行われました。本授業では、1年生から3年生の学年ごとに、3回に分けてアーチェリーの実技体験をし、全校生徒を対象に、「継続することの大切さ」という演目で川中さんの講演会を開催しました。

川中さんは、高校生のときにアーチェリーに出会い、軽い気持ちで始めたそうですが、矢を射って得点していくという感覚がおもしろく、次第にアーチェリーにのめり込んでいったそうです。アーチェリーはあまり動かない競技と思われがちですが、予選だけでも72本もの矢を放たなければならず、体幹も必要とされるので、想像以上に体力を使う競技だといいます。また、基本的には屋根などがない場所が会場になるので、雨や風などのその日のコンディションを考慮した上で、70メートルも先にある的を的確に狙わなければならないそうです。練習しても思うように調子が出ないこともあったそうですが、いつか必ず結果に結びつくと感じて、どのようなときでもやらなければならないことを地道に積み重ね、乗り越えてきたといいます。質疑応答では、「アーチェリーを通して成長できたと思うことは何ですか？」「試合で負けたときの立ち直り方は何ですか？」といった質問が、生徒たちから次々と繰り上げられました。代表生徒からの謝辞では、小さな積み重ねを大切に、これからの高校生活をがんばっていきたいですという言葉で結ばれ、川中さんの言葉や生き方が多くの生徒たちの心に響いた様子でした。

アーチェリーの体験では、本校に勤めているアーチェリー経験者の先生が、基本的な構え方などを生徒にレクチャーした後、5～6人のグループごとに順番に練習しました。的までは4メートルほどの距離でしたが、安定した体幹や集中力が大変必要とされるため、なかなか的の中心を射ることは難しいようでした。それでも、川中さんから丁寧に指導していただくと、徐々にコツをつかみはじめ、的の中心近くを狙える生徒が増え始めました。生徒同士で構え方や弓の引き方などを教え合う姿も印象的でした。途中、川中さんの模範演技を見せていただきましたが、圧倒的で堂々とした佇まいに会場は拍手喝采でした。

講演会の中で川中さんは、アーチェリーという競技をもっと多くの人に広めていけるよう活動していきたいと語っていましたが、今回の取組みは多くの生徒たちにとって非常に新鮮で印象深い経験となり、アーチェリーの楽しさに触れることができた実践となったことが伺えました。

6 実践の様子



アーチェリーの指導をする先生



川中さんに教えてもらいながら練習する生徒



アーチェリー体験で使用した用具



アーチェリー体験の様子



川中さんの模範演技



講師の川中さん



講演会の様子



代表生徒からのお礼の言葉